

令和3年度 第1回磐田市魅力産業支援会議 内容及び会議録

1 日 時 令和3年7月21日（水） 15時00分～17時00分

2 場 所 磐田市役所本庁舎 大会議室

3 出席者 磐田市魅力産業支援会議委員 11名  
事務局（経済観光課、産業政策課）

4 内 容

(1) 開会

(2) あいさつ

(3) 出席者紹介、新委員委嘱、委員長・副委員長選任

(4) 議題1 新磐田市産業振興計画の策定について  
(計画策定趣旨、魅力産業支援会議の役割、スケジュール等)  
議題2 新磐田市産業振興計画の素案について

(5) その他

(6) 閉会

5 意見等

議題1：新磐田市産業振興計画の策定について

事務局：令和3年度をもって、平成29年度から始まった現磐田市産業振興計画の計画期間5年間で終了し、令和4年度からの5年間を見据え、産業振興計画を新たに策定する。

：計画の位置づけについては、第2次磐田市総合計画を上位計画とし、磐田市まちひとしごと創生総合戦略、磐田市中小企業及び小規模企業振興条例などの関連計画や条例を踏まえ、産業分野の施策に特化した計画とする。

：計画対象は、農業、林業、漁業、建設業を除く産業全般となる。例外として次世代型農水産業、6次産業化、農商工連携などに関する分野については、本計画の対象とする。

：計画の方針は3点 1点目、目指すべき将来像の実現に向けて、新たな取組を重視し、「アフターコロナ」「SDGs」「デジタル化」といったキーワード等、理想と実現性のバランスのとれた魅力ある計画とすること。

2点目、日常業務の中で実施している企業訪問や、実態調査などから得られた情報や意見を大切にして、市内産業の実態に即した計画とすること。

3点目、魅力産業支援会議でいただいた現場の声などの意見を伺いながら、計画策定に努めて進めること。

：計画期間は、令和4年度から令和8年度の5年間。計画の実効性と弾力性確保のため、毎年度のローリングを実施予定。

：産業部のワーキンググループを中心に作成した計画素案に対して、魅力産業支援会議にて意見をいただきながら、修正を加え、策定していく。委員の皆様から、計画素案に対する活発な意見交換や提言をいただきたいと考えている。

:その他 年度内4回程度の会議開催、計画案に対するパブリックコメント1回、令和3年度3月中の策定公表を予定。

委員：総合計画の後期基本計画と整合を図って策定していくということでよいか。

事務局：後期基本計画と並行して、整合性をとりながら策定していく。

議題2：新磐田市産業振興計画の素案について

事務局：提示する素案は計画策定のたたき台として作成したもの。

将来像ビジョン案「新たな価値を生み続けるまち磐田」

:価値とは、事業者の事業継続の源泉である製品やサービスの価値を意味している。例えば価格競争力、納期、品質、安全性、希少性、デザインなど、いろいろな価値があって選ばれているということであるが、昨今では、製造過程で環境負荷に配慮されていることなどを新たな価値として評価されている。

:SDGsの理念が企業経営にとって重要と認識され始めている。地域の自然環境や社会課題を踏まえた持続可能を意識することや新たな価値観に対応した製品・サービスが求められている。

:関係機関と連携した支援によって、事業者が時代に対応した価値を常に生み出せる土壌や環境づくりを目指していくことが持続可能な産業基盤構築につながるという意味で、「新たな価値を生み続けるまち」を将来像ビジョンとして位置づけている。この将来像を達成するための基本目標案を4つ設定している。

「人が集い、新たな価値を生む」

新たな価値、付加価値を生み続けるための手段として、市内外の人が集まっていかにぎわいをつくり出すこと。

「今を革新し、新たな価値を生む」

インターネット、デジタルに代表される新たな技術の活用や外部リソースの活用、オープンイノベーションによって、既存の事業そのものや、そのやり方を革新し続けていくこと。

「新たなプレーヤーが、新たな価値を生む」

新たな企業や成長分野の誘致。

「人財が、新たな価値を生む」

多様な人材の就労や、創業・起業といった新たなプレーヤーのための環境を整えることによって、そういった方たちを支援していくことを上げさせていただいた。

以下、もう少し具体的に施策に落とししたものを、各担当から追加説明。

□基本目標案「人が集い、新たな価値を生む」について

施策案としては以下3つ

- ・観光レクリエーション施設を生かしたまちの活性化について  
磐田市が有する多彩な体験施設などを活用し、アフターコロナを見据え、市内外から交流人口を増加させるための施策。近年、アウトドアブームにより増加しているキャンパーや、釣り客などが海辺に限らず、市内各所へ回遊してもらえるよう検討。  
事業評価指標として、これら施設や観光地を訪れた観光交流客数をもとに、数値目標を立てることを検討。
- ・地域資源を活用した新たな魅力発信について  
ジュビロ磐田や静岡産業大学などと連携し、スポーツを通じた磐田市の魅力発信に加え、新型コロナウイルスによる外出自粛などにより見直されてきたマイクツーリズムに着目し、新たな磐田市の風景や歴史を再発見できる事業を考えていきたい。
- ・商業者のネットワーク構築支援とにぎわい創出  
コロナによる生活様式の変化により、屋外販売やテイクアウトが見直されている。キッチンカーや移動販売車等が集まり、にぎわいにつなげられる活動などについて検討。また、中心市街地にとどまらず、広く市内の個店同士がつながり、協力し合って、それぞれの魅力を発信できる支援を考えていきたい。

□基本目標案「今を革新し、新たな価値を生む」について

施策案としては以下3つ

- ・ものづくり産業のイノベーション支援について  
本市基幹産業である製造業の革新的な取組の支援を施策として位置づけ。  
脱炭素に関連した車両の電動化、デジタルトランスフォーメーションなどの変化に対応し、市内企業のデジタルを活用したものづくり現場の革新や既存技術の深掘り、新しい成長分野への展開などの取り組みを支援していきたいと考えている。  
事業の評価指標としては、前回計画では製造業の中でも、輸送機器製造業における製造品出荷額という絞り込んだものを目標としていたが、次期計画では、製造業全体に業種を広げ、一事業者ごとの製造品出荷額や生み出す付加価値額、生産性というところも踏まえて数値目標としたい。
- ・中小企業等の競争力強化支援について  
文字どおり、市内中小企業の皆さんの競争力を強化、支援をするために、アフターコロナにも対応した新たな製品や新たなサービスの開発、ウェブなどを活用した新たな販路開拓の取り組みなどを支援していくことを考えている。
- ・経営基盤安定化支援について  
昨年度来、急増した県制度融資利用に対する利子補給を引き続き対応し、金融機関支援機関と連携した経営支援、事業承継支援に取り組んでいきたい。また、災害や感染症リスクに対するBCP策定支援にも取り組んでいきたいと考えている。

□基本目標案「新たなプレーヤーが、新たな価値を生む」について  
施策案としては以下3つ

・企業立地の推進について

市の基幹産業である製造業の工場の新設や増設を推進することを重点施策として位置づけた。新型コロナウイルスの影響で、設備投資を行う企業が減少している。アフターコロナを見据えて、企業ニーズを的確に把握し、投資意欲のある企業に対し、投資に係る初期費用の支援のほか、法令手続ワンストップ窓口等の支援により、企業が操業しやすい環境を整備することで、企業の立地を推進していきたいと考えている。

事業評価指標としては、1,000平方メートル以上の用地への工場の立地件数を数値目標としたいと考えている。

・新たな産業用地の確保について

現在、下野部工業団地の主要区画、五十子工業団地が完売し、企業に紹介できるまとまった工業用地が少なくなっている。民間事業者の工業用地開発を支援し、新たな工業用地の整備を進めていきたいと考えている。

・新たな産業の成長の支援について

製造業、次世代型農水産業に続く産業を創出するため、今年度にオフィスを対象とした補助制度を創設し、本市の誘致活動を始めた。現在、制度をつくったときは状況が変わり、オフィスそのものを縮小する考え方が強くなっている。地方への新しいオフィスの立地が厳しくはなっているが、引き続き磐田市と縁のある企業等を対象にして、誘致活動を継続していきたいと考えている。オフィス立地推進のほか、市内企業との連携が期待できるもの等、新しい産業の創出や成長を支援していきたいと考えている。

□基本目標「人財が、新たな価値を生む」について  
施策案としては以下3つ

・U I J ターン就職の促進について

就活生を中心とした支援のほか、今後は氷河期世代を含む離職者や一般求職者など、求職者全般を対象に、企業とのマッチング機会を創出していく。

オンラインを活用した交流会や、西部地域広域で取り組むフェアの開催、またリニューアルした就活サイトの活用による情報発信力の強化などに取り組んでいきたいと考えている。

事業評価指標として、当事業に登録する就活生を中心に、市内企業への就職決定状況を調査し、その件数を数値目標とすることを検討している。

・創業起業への支援について

市の金融機関、支援機関が連携する「創業サポーター」により、創業前から創業後まで伴走型の支援を実施していく。ワークピア磐田内にある「はじまりのオフィス」を拠点とし、創業セミナーや交流イベント、チャレンジ販売など、様々な支援により創業しやすい環境づくりに取り組んでいく。

・多様な人材の活用、就労の支援について

ハローワークや県等と連携し、女性や高齢者、障害者、外国人等の多様な人材と、企業とのマッチング機会の創出や情報発信等により、就労を支援していく。

また、兼業副業による人材の活用についても検討していきたいと考えている。

委員：人が集い新たな価値を生むについて、磐田のブラジリアン柔術ジムからチャンピオンが2人出た。磐田が格闘技界の聖地になっている。うまくイベント開催だとか、つなげられたらいい。

委員：現代社会に抱える問題がコロナで一層顕著になっている。経済危機の頻発とか、経済格差の拡大、雇用無き都市化の進行、若手の失業率の高さによる社会福祉財源の不足。キーワードはやはり「持続可能」。将来像を「持続可能ないわたの未来づくり」～新たな価値を生み続けるまち～とするのはどうか。

事務局：SDGsは自治体にとっても企業にとっても今後踏まえていかなければならないこと。企業経営にとって、持続していくために環境や社会というところは、プライオリティーとして利益の次みたいなところがあったかもしれない。長い目で経営ということを見ると、自社活動の環境への影響、人材活用の考慮も必要。SDGsの概念をもう少し反映出来ないかと考えている。17のターゲットは本計画の体系表に関連しているところが必ずある。

委員：SDGsは今、自治体もかなり取り組んでいる。2030年目標と考えると、何らかの形でやはり盛り込む必要がある。特にエネルギー、働き方と経済成長、産業と技術革新、住み続けられるまちづくり、いろいろ反映できるはず。

委員：地域資源を活用して新たな魅力発信というところだが、今までの委員会で皆様がスポーツの話を多くしていた。例えば「地域資源を活用した新たな魅力発信」を「スポーツ等、地域資源を活用した新たな魅力発信」という形はどうか。

事務局：今後検討していきたい。5年前、新たな目標をつくったときに当然、4年後、今年やろうとしているオリンピックが視野に入った段階で、これまでの目標がつけられた。磐田市としてやはり卓球、サッカー、ラグビー、いろいろとスポーツがある。御意見を参考にしながら、計画に盛り込んでいければいい。

委員：将来像にしても、基本目標にしても、事務局の説明ではいろいろな要素があるということだが、資料だけ見ると、そういったことがわからない。基本目標については、4つの基本目標案×3つの施策案はカテゴリー分けにはいいのかもしれないが、今回、どういったことを盛り込みたいとか、どういう視点で考えていくかということが重要。例えば、スポーツをどうするとか、何か思いみたいなものが分かるほうが、これから計画策定していく上で、整理につながる。

委員：しおさい竜洋や渚の交流館の活用、サイクルツーリズムの推進について、少々絞られ過ぎているような気がする。しおさい竜洋や渚の交流館だけでなく、太平洋サイクリングロードも充実されているので入れたほうがいい。オートキ

キャンプ場宿泊客を呼び込む市内回遊策の推進について、オートキャンプ場宿泊者だけでなく、観光地であったり、見付天神、府八幡宮だったり、あらゆる観光地から呼び込むなど、回遊策の推進を。地域資源を活用するといったところでは、サッカー、ラグビー、そこに卓球は入れるべき。事実、某大学卓球部など、今まで来ていなかったところが合宿に訪れている。

委員：重点施策が、各項目に1つずつ。今までスポーツ関連の話も多く出たということなので、重点施策は2つでもよいのでは。UIJターン就職の促進ということで、動画を各企業撮って、首都圏の学生さんに見てもらうのも効果的なので、検討していければいい。

委員：磐田駅前広場の活用、商店会連盟組織の構築支援が、磐田駅前だけでなく豊田町、御厨もあれば。田舎の地方で、3駅もあるような市はあまりない。新たに御厨周辺も盛り込むほうがいい。駅前をどう盛り上げていくか。

委員：まだ1回目の会議で「主な基本事業の例」ということ。2回目以降のために、委員の皆様からの意見をいろいろいただきたい。

委員：人材というところに1番こだわっている。女性活躍という言葉がある。継続して仕事をしたいという社員が非常に増えている。子供を保育園に預けて、会社にまた復帰してくれている。企業内保育までは出来ないが、子供を連れてきて、何かが出来たらいいなということを考えている。高齢者、障害を持っている子どもたちも、頑張ってくれている。ものづくりがその子に合えば、働き先として環境を準備できればいいと思って受け入れているが、通勤手段が難しいなど問題はある。こういう交通手段も、何かアイデアがあったらいいなと考えている。

この地域はB to Bのものづくり企業が多い。そして、EV化していく流れがある。中小企業の中では、B to Cでの挑戦、切り口、出会い、こういったものが難しい。いろいろな角度から御意見いただければ、ものづくりが変わっていくのではないかな。先のことを考えて、B to Cのものづくりも挑戦しなければいけないということを若者たちと話している。

委員：ほかのものとクロスさせることで、例えばヒートマップみたいに、「みんなこれ興味あるんだな」など、充実していくのでは。磐田市の新造形創造館は発信力もあり、何か面白いことが出来ないか。

自分は農業関係の仕事をやっていて、ケールで機能性表示を取得した。GABA値が高い磐田市産、磐田市が聖地だということで活動している。それ以外の野菜も機能性を分析しているところ。

人が集うというところの地域資源はスポーツ分野。アスリートベジタブルを自分は提案していて、機能性を分析した野菜がたくさんある。アスリートは、マラソンでいえば市民ランナーも入れると全人口の10%、1,000万人いる。1,000万人に磐田市が訴えるということ。

企業立地のところでは、農業関係でららぽーと南側にいろいろな会社に来ていただいている。既存企業よりも小規模な企業誘致や、アスリートベジタブルに賛同してくれる人を集められたらと思う。もう一つ、アスリートベジタブルというのは、野菜だけでなく、フルーツも入ってくる時代。抗酸化性能、免疫を高めるという意味では、ベリー系のブルーベリーやイチゴも入る。そういうものを磐田から発信できれば、この農業においてはすごく発信力になり、いろいろな方とつながりができる。一步前進させてもらえるとありがたい。

委員：人が集い新たな価値を生むについて、しおさい竜洋は、ゆるキャン▲で非常に注目を集めた。見付天神も注目を集めている。聖地巡礼のようなことが、起きているのではないか。エヴァンゲリオンに出ていた駅も天浜線の二俣。ゆるキャン▲でヤマハのバイクやスズキのジムニー・ハスラーが出ているメリットを活かして人を磐田に呼び込む等、ぜひ進めていただきたい。

委員：SDGsに関しては、この1年ぐらいで、非常に注目度が上がっている。それまでESGが主流だったが、ESG+SDGsというところで、企業としてもやっていないと選ばれない基準になってしまうような状況にある。磐田市としても支援の部分と、取り組んでいく部分の両面で発信していったらどうか。SDGsを頑張ることで、注目されるという部分もある。付随して、人が集まるという形にもなるのではないか。

企業立地と新たな産業用地の確保について、客観的に見て磐田インター周辺と、袋井・浜松インター周辺を比べると、磐田のほうが寂しい感じに見える。スマートインターがせっかくオープンしたということで、磐田インターから新東名スマートインターにかけて、ららぽーとにもスマートインターがあるので、そういった地域に中小企業が集まってくるような、そんな施策をやっていただきたい。

女性活躍社会の実現ということで、弊社も9割女性という中で、保育所探しも大変でなかなか見つからない。「なんとか社内で受入れられないか」「企業内で保育所を設置するのってどうやるんだろう」と思っている段階。女性が社会経済を回していく、中心となっていくと仮定すると、このような環境をつくる企業に対しての助言やサポートも企業支援の一つになる。多様な人材の就労支援ということで、ぜひお願いしたい。

委員：就労支援が非常に重要。雇用面では助成金の案内など、企業も知らない情報は多い。企業としても何かハードルは高く見えるが、やってみると思ったよりそうでもなかったという意見もある。難病指定の方や障害をお持ちの方でもここだけ注意というのをわかってもらえれば、働ける方が結構多い。障害をお持ちの方という知的、肢体が動かない方が、どうしてもメインになるが、もうちょっと掘り下げたところに皆様も目を向けていただければと思う。

委員：柔軟な発想をするには、基本目標案4つ×施策案3つにこだわらなくてもいいかと思う。まず1つ目に地域資源について、毎度「地域資源の活用」「スポー

ツ」が議論になっているにもかかわらず、イベント開催にとどまっている。もっと挑戦してもいいと思う。

2つ目の重点施策、ものづくりについては脱炭素やEV化を意識しなければいけない。支援機関へのマッチング等にとどまっているので、もっと踏み込んだ策を検討いただきたい。数値目標の例も、出荷額、生産性になっているが、一般的に新たな価値を生むということであれば、新たな価値が何なのかというところを明確にし目標設定したほうがいいのではないか。

3つ目は新たな産業の成長支援であるが、例示にもあるように健康関連など、テーマを持って重点的に施策を打つのはいいと思う。

4つ目に多様な人材の活用について、皆様からの意見も多かった。ここもSDGs的に言って女性活躍は外せない。そこに対する突っ込んだ施策を皆さんで考えていけるといい。

委員：EVの問題は決して簡単ではない。最終的には車メーカーが電動車100%の体制にシフトできるかどうかということになってくる。調べると2019年に日本で販売された新車30万台のうち、HVが3割強で、EVとFCV燃料電池自動車これが1%未満。ほとんどまだガソリン車が6割強を占める。しかし、部品メーカー、事業者は、事業転換がどうしても必要になってくる。世界の動きの中では、避けて通れない問題であり、必ず触れておく必要があると思う。支援策がすぐ見つからなければ、行政の中でも情報を仕入れて、民間と一緒に検討し合うなど、いろいろな方法が必要になってくる。

委員：ものづくり産業イノベーションについて、脱炭素という話がある。大企業を中心に大手メーカーもCO2削減目標がある。自社のCO2削減量、排出量など、その出し方を知らないと思う。そういった面の支援は、磐田市も一緒になってやっていただきたいと思う。また、EV化の流れに対しての支援というところで、EVステーションをつくっていくなど。テスラを目の当たりにすると、これはすごい産業革命だと感じた。近い将来ではなく間近という状況、市と産業が一緒になって乗り越えていけたらいい。

委員：今回の主な意見として、基本目標案4つと施策案3つにこだわる必要がないのではということ。もう少し磐田の想いや特徴を出したらどうかということ。基本目標の示し方の工夫。就業支援。様々な観光施設のネットワーク。EV化。人材の登用、女性、障害者、難病指定者。シティプロモーションの工夫。UIターンではオンラインの活用。いろいろな意見をいただいた。これらの意見を次回の会議につなげていただきたい。

---